

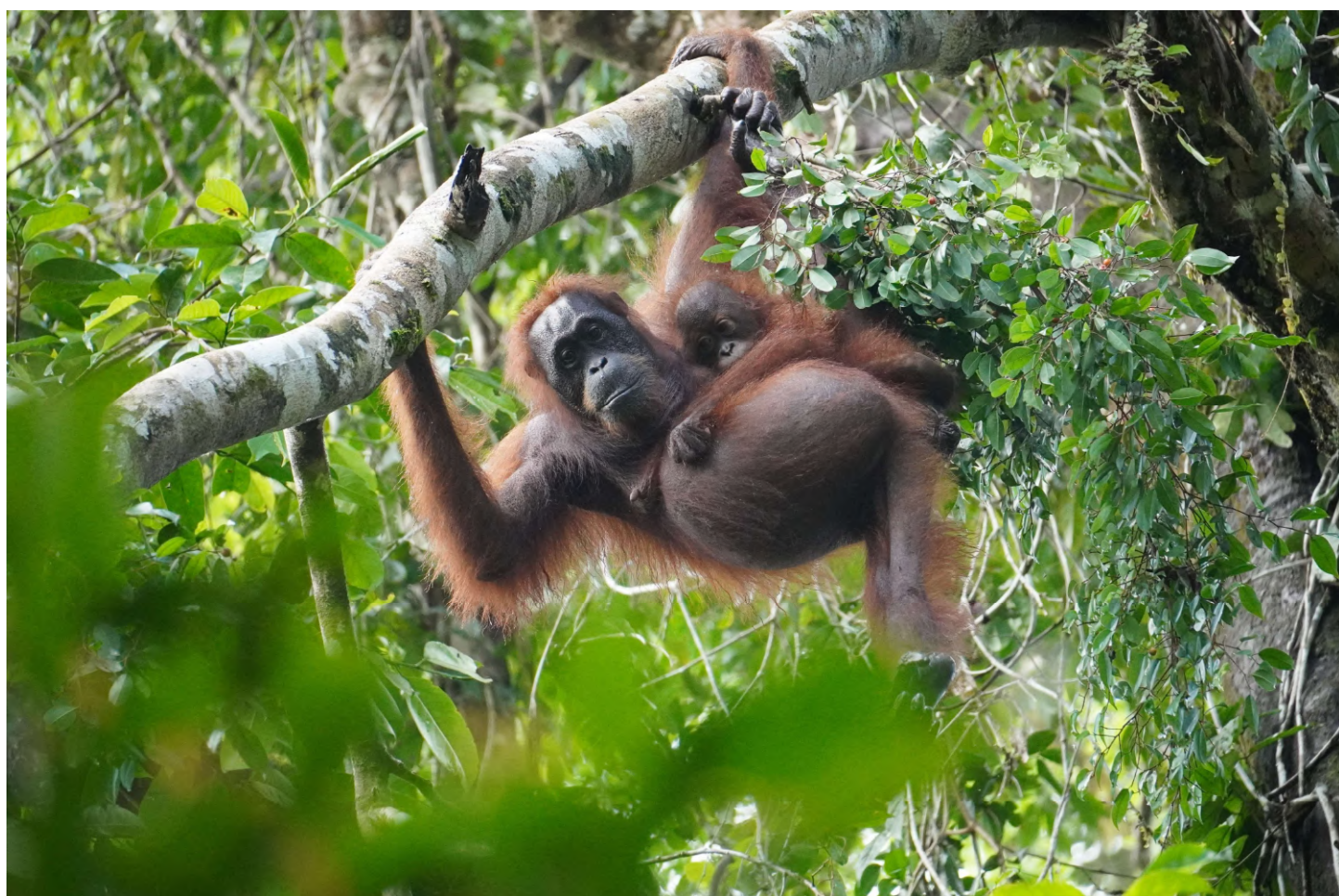
Annual
Activity
Report
2024.4-2025.3



Orangutan
Research Center

NPO法人日本オランウータン・リサーチセンター

2024年度活動報告



Beth とLan (2025年3月15日ダナムバレイで撮影)

おらけんレポート第9号

会員の皆さまへ 代表 黒鳥英俊からのご挨拶

活動支援のお礼とご挨拶

いつも「おらけん」にあたかなご支援をいただき誠にありがとうございます。「おらけん」こと、日本オランウータン・リサーチセンターも立ち上げの2016年スタートから9年目の年を迎えることになりました。コロナの後、しばらく生息地の調査や国内での啓蒙活動なども自粛しておりましたが、やっと最近になってコロナ前の状況にまで再開できるようになりました。しかし、ボルネオの森にくらすオランウータンたちの生活はまだまだ環境破壊により明るい未来とは程遠い状態です。また、国内の動物園でもここ数年、急速に飼育頭数が減少し、特にスマトラオランウータンは国内に7頭(2025年3月)までになってしまいました。

このようにオランウータンを取り巻く状況は野生でも動物園でも何か私たちがサポートしなくては存続できない時にまでなっていました。こんな中、私たち「おらけん」も皆様のご協力のもとオランウータンのいまの現状を伝え、さらに調査研究、保全を継続することにより彼らの知られざる魅力を多くの方に知ってもらいたいと思います。また、動物園においても彼らの福祉を考えた飼育や展示など、アドバイスやイベントなども企画していきたいと考えております。これからも皆様のご協力をお願いいたします。



代表 黒鳥 英俊

2004年 ダナムバレイでの調査開始

2016年 任意団体設立

2019年6月 NPO法人認定

活動の目的・内容

活動目的:

ボルネオ島とスマトラ島に生息する野生のオランウータンおよび国内の動物園で飼育されているオランウータンを主な対象として、行動や生態、生息環境等に関する学術的基礎研究を振興する事業を行う。

研究支援活動を通じて、絶滅に瀕するオランウータンの保全に貢献するとともに、オランウータンとその生息環境に関する研究成果を一般に普及啓発する事業を実施することで、オランウータンの魅力と現状を伝え、人と自然の持続可能な環境社会づくりに寄与することを目的とする。

野生オランウータンの
調査研究および保全活動

講演会等による実情理解を
を深めるための教育普及



日本オランウータン
リサーチセンター

国内動物園における
調査研究および動物福祉

ウェブサイトやニュースレター等の
情報発信

2024度 主な活動成果 《ダナムバレイ 調査報告》

■ ■ ダナムバレイ保護区での研究活動

ボルネオ島マレーシア領サバ州にあるダナムバレイ保護区には、約500頭以下のボルネオオランウータンが生息しています。当NPOの研究者たちは、2004年から2024年までの21年間、ダナムバレイで野生オランウータンの研究活動を続けてきました。21年という長いように思われるかもしれませんが、オランウータンの寿命が60年であることを考えると、生活史の1/3でしかありません。そのため、少人数による小規模な調査でも、同じ地域の地域個体群のデータをできるだけ長期的に収集・分析することが重要だと考えています。

2024年度は、一度も中止することなく、毎月順調に調査を実施できました（計12か月）。調査アシスタント2名が現地に常駐し、オランウータンの観察、生息密度調査、森の食糧評価（果実量）調査を継続的に行っています。また、研究チームのメンバーも年間5回現地を訪れ、それぞれの研究テーマに沿ってデータの収集や環境の整備、雇用体制の確認、連携組織やカウンターパートとの打ち合わせなどの活動を行いました。

■ ■ オランウータンの観察記録

1) Oniの第二形態への移行とその背景

2024年度の調査では、合計25頭の野生オランウータンを観察することができました。

その中でも特筆すべきは、オスの個体「Oni」に見られた形態の変化です。Oniは、2004年から観察を続けている個体で、これまで20年以上にわたり「アンフランジオス」（ほほのひだが発達していないオス）として過ごしてきました。この状態は、優位な立場にないオスにしばしば見られる特徴です。

ところが2024年、Oniに「フランジオス」（ほほのひだが発達した優位なオス）の第二形態への変化が確認されました。この背景には、2023年後半以降、それまで調査域にいた他のフランジオスたちが別の地域へ移動し、約1年以上にわたってOniの周囲に優位なオスがいなかった状態が続いたことが関係していると考えられます。

このような環境の変化をOni自身が察知し、優位なオスとしての形態に移行した可能性があります。オランウータンのオスにおいては、社会的環境に応じて発達が遅延・促進される現象が知られており、Oniもまさにその例のひとつと言えるでしょう。

今後、他のフランジオスが再び調査域に戻ってきた際に、Oniがどのような行動をとるのか、引き続き注目していきたいと考えています。

2) Sumiの第4子誕生

オランウータンは、一度の出産で1頭の赤ん坊を産み、その子を約4～7年かけて丁寧に育てます。2024年8月には、推定36歳のメス「Sumi」が新たに赤ん坊を出産しました。Sumiにとっては、2005年、2009年、2014年に続く4頭目の子どもとなります。

新生児の糞や尿といった生理サンプルは、採取が非常に難しく、研究上きわめて貴重です。そのため、研究チームはこの親子を探し出し、追跡・観察を進めながら、慎重にサンプル採取を試みています。



アンフランジだったOni
(2019/7/14に撮影)



フランジオスになったOni
(2024/8/9に撮影)



Sumiと新生児
(2024/12/7に撮影)

2024年度 主な活動成果 《ダナムバレイ 調査報告》

人材育成の取り組み

私たちは、将来マレーシアの若者たちがオランウータンの研究や保全の担い手となることを目指し、人材育成に力を入れています。この取り組みは2023年度に始まり、2024年度で2年目を迎えました。

具体的には、ダナムバレイ保護区をはじめ、オランウータンの保全に関わる地元の連携組織(サバ財団、野生生物局、サバ大学)と協力し、これらの組織から派遣された研修生(大学院生、ガイド、レンジャーなど)に対して、野外での調査技術や専門知識を提供する研修を行っています。なかでも、地元の大学院生への支援には特に力を入れており、学術的なサポートや調査環境の整備など、多角的な支援を通じて、マレーシア人によるオランウータン研究者の育成を目指しています。

2024年度には、連携組織4カ所から派遣された13名の研修生を対象に、人材育成プログラムを実施しました。

1	所属	マレーシア国立サバ大学、大学院生
	氏名	Ms. Nur Syamimi Binti Makbul (1名)
	期間	2024年5月、8月、10月、2025年2月
	目的	オランウータンの調査活動、サンプル収集を行う
2	所属	セピロク・リハビリテーションセンター、レンジャー
	氏名	Mr.Lineker Saipun 他(10名)
	期間	3回(4月11-18日, 11月8-13日, 2月15-21日)
	目的	リハビリテーションセンターにいる半野生オランウータンとは異なる、野生オランウータンの生活や採食、食物植物を学ぶ
3	所属	サバ財団(ダナムバレイ保護区管理機関)
	氏名	Mr.Cafasso Theodor(1名)
	期間	2024年8月16日
	目的	オランウータンの調査を視察
4	所属	日本オランウータン・リサーチセンター
	氏名	調査アシスタント、Heyry Jon Gabriel Pondy
	期間	2024年6月19日~23日(5日間)
	目的	私たちのアシスタントが、サバ州におけるオランウータンの保全状況を学ぶため、サンダカン市に短期出張しセピロクでの研修を受けた

これまでに実施してきた研修の中で、オランウータン・リハビリテーションセンターに勤務するレンジャーたちは、半野生のオランウータンの世話をしてきた経験から、野生個体の行動を直接学べる本研修がいかに貴重な機会であるかを深く理解しています。そのため、研修には非常に熱心に参加しており、センター内の多くのスタッフが体験できるよう、次々と新しいメンバーを派遣してきました。最近では、事務スタッフも研修に加わっています。

このリハビリテーションセンター向けの研修は、最も実践的で効果を実感できたプログラムのひとつとなっており、今後はこの成果を他の連携組織にも広げていくことが目標です。

すでに他の組織からも参加を希望する声が寄せられており、2025年も引き続き受け入れを行う予定です。



研修生たちの様子

2024度 主な活動成果 《ダナムバレイ 調査報告》



Gabriel(右)とPeo(左)



Gabriel(右)とJohven(左)

■■ 調査こぼれ話(1):アシスタントの雇用

私たちが行っているオランウータンの追跡調査では、1頭の個体を見失うことなく終日観察を続けるために、少なくとも2名の調査アシスタントが必要です。シニアアシスタントのPeoは、21年にわたり私たちの調査を支え続けてきた、経験豊富で信頼の厚い、現地に根ざした心強い存在です。一方で、ジュニアアシスタントは数年ごとに交代してきました。

2021年から雇用していたジュニアアシスタントのGabrielは、2024年10月に退職し、長年の夢だったツアーガイドの仕事に就くため、エコツアー会社に転職しました。彼が調査地で培った経験を土台に新たな道へと踏み出したことを、私たちは大変誇らしく思い、これからの挑戦を心から応援しています。

現在は、新たに加わったJohvenが、Peoの指導のもとで学びながら調査活動を支えています。ただし、Johvenも2025年には進学のため退職が決まっており、私たちは次のアシスタントの受け入れ準備を進めているところです。

近年、マレーシアでも物価や人件費の高騰が急速に進んでおり、本来は3名体制を目指したいところですが、現在は2名を雇用するのがやっとという状況です。引き続き、限られた体制の中でも調査を安定して継続できるよう、工夫と努力を重ねていきたいと思っています。

■■ 調査こぼれ話(2):調査小屋の修理工事

私たちが調査拠点として使用している調査小屋は、2010年に建設されました。熱帯雨林の真ん中に建つ木造のこの小屋は、すでに14年が経過しており、損傷が目立つようになっています。毎年、節約して確保した予算を使い、床や屋根などの一部を工事して、なんとか維持しているのが現状です。また、2024年には、10年以上使用してきた冷蔵庫とテレビが故障しました。長期間にわたって現地で生活していると、こうした設備も少しずつ更新が必要になります。

近年は人材育成事業も始まり、小屋の使用頻度も高まっています。今後できるだけ長く小屋を使い続けられるよう、日々の修理と丁寧な使用を心がけていきたいと考えています。(金森)



調査小屋



床修理の様子

■■ 寄付金へのお礼

皆さまからお預かりした寄付金は、オランウータンの調査活動に伴う現地アシスタント、研修生の給与や食費、調査機材の購入などに使わせていただいております。皆さまのご支援のおかげで、現地での調査体制を維持することができています。皆さまのご理解とご支援に、関係者一同、心より感謝を申し上げます。

※この活動は、環境再生保全機構地球環境基金、経団連自然保護基金を受けて行われました。

2024年度 主な活動成果！ 《研究発表》



▼2024年度 研究発表

■ 2024年7月13日 第40回日本霊長類学会大会
「半野生オランウータン個体群の遺伝的多様性と存続可能性の評価」
田島知之, Vijay Kumar, 佐藤悠, 井上英治, 村山美穂

■ 2024年9月28日 あにえるち10周年感謝祭
「めざせ！オランウータンはかせ」
蔦谷匠

■ 2024年10月12日 日本人類学会第78回大会
「糞プロテオミクスによる野生オランウータンの授乳・離乳パターンの解明」
Syamimi Makbul, 西内巧, Anna Wong, Vijay Kumar, 田島知之, 金森朝子, 久世濃子, 蔦谷匠

■ 2024年10月31日 19th International Symposium on
Primates and Wildlife Sciences
“Assessing the genetic diversity and viability of semi-wild
population of orangutans”
Tomoyuki Tajima, Eiji Inoue, Vijay Kumar, Yu Sato, Miho
Inoue-Murayama

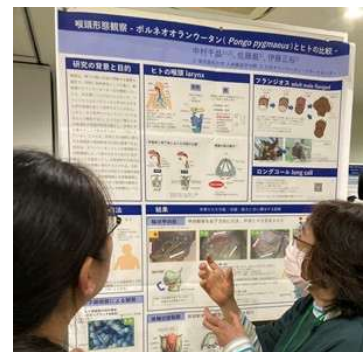
■ 2024年11月3日 湘南国際村アカデミア講演会×総研大学術講演会
「森の賢人を追って：野生オランウータンの調査研究」
蔦谷匠

■ 11月9日（土）、10（日）
各務原市と名古屋市で行われた「第26回SAGAシンポジウム」に於いて、
蔦谷と中村がポスター発表を行いました。

・「糞プロテオミクスによる野生オランウータンの授乳・離乳パターンの解明」
蔦谷匠
・「喉頭形態観察-ボルネオ・オランウータン(*Pongo pygmaeus*)とヒトの
比較-」中村千晶



蔦谷匠



中村千晶

■ 12月7日（土）
エンリッチメント大賞2024ポスター発表
「オランウータンの舌組織の細胞表現型解析」中村千晶

■ 2025年3月13日 第72回日本生態学会大会
“Genetic diversity and population viability for the semi-wild
Bornean orangutan population”
Tomoyuki Tajima, Eiji Inoue, Vijay Kumar, Yu Sato, Miho
Inoue-Murayama.

2024年度 主な活動成果2 《論文、他》

▼2024年度 学術論文、他

■ 2024年10月

「Dietary partitioning in sympatric Paradoxurinae civets in Borneo suggested by compound-specific nitrogen isotope analysis of amino acids」(アミノ酸の化合物特異的同位体分析によって示唆されたボルネオの同所的なパームシベット亜科における食性分化)
Miyabi Nakabayashi, Takumi Tsutaya, Abdul Hamid Ahmad, Yoko Sasaki, Nanako O. Ogawa, Naoto F. Ishikawa & Naohiko Ohkouchi
Progress in Earth and Planetary Science volume 11, 53

■ 2025年2月

「閉鎖環境下における社会と行動：宇宙霊長類学試論」
田島知之
地球・宇宙・未来 1(2)

■ 2025年3月

「「分かちあい」の進化—オランウータンの雌雄における分配ダイナミクス」
田島知之
「フィールドにみえた〈社会性〉のゆらぎ 霊長類学と人類学の出会いから」
京都大学学術出版会

■ 2025年3月

「共に飲め、共に酔え—ボルネオ伝統式飲酒量測定器」
田島知之
「ザ・フィールドワーク：129人のおどろき・とまどい・よろこびから広がる世界」
京都大学学術出版会

■ 2025年5月（告知）

当団体代表の黒鳥英俊が、偕成社より写真絵本『キューのふるさととはボルネオの森』を出版しました。本書では、日本の動物園にいる野生出身のオランウータンのうち、最後の2頭のうちの1頭である多摩動物公園のオス「キュー」と、彼のふるさとであるボルネオ島の生物多様性豊かな熱帯雨林を紹介しています。オランウータンの背景を知るきっかけとして、ぜひご覧ください。



キューのふるさととはボルネオの森
黒鳥英俊 文
横塚真己人 写真・構成
偕成社 1,600円＋税

2024年度 主な活動成果 《講演・イベント》



■ 4月13日(土)、14(日)

京都市動物園「野生動物学のすすめ2024」

園内に設置されたブースで、スタッフがおらけんの活動を紹介し、オランウータンに関わる書籍やグッズを販売、また参加NPO団体がリレー形式で行う活動紹介の講演を、おらけんの田島が担当しました。

■ 8月3日(土) 14時00分～15時30分

小川珈琲主催 オンライン無料講習会「オランウータン学校」を、小学生対象に田島が講演しました。今回は小川珈琲 堺町錦店にて8月4日から開催された、ボルネオオランウータンの「モリー」と「ジプシー」(ともに多摩動物公園で飼育されていた個体)が描いた絵画展「オランウータン展覧会～森の人からのおくりもの」の会場から配信しました。

■ 8月

小川珈琲主催 「オランウータンの森 絵画コンクール2024」

8月19日の国際オランウータンデーに合わせて開催、公募された絵の審査におらけんの理事が加わり、優秀作品は小川珈琲店舗、京都市動物園で展示されました。2024年のテーマは「描いてみよう! 森とともに生きるオランウータンの暮らし」でした。

■ 10月27日(日)

よこはま動物園ズーラシアで開催の「ズーラシアフェス!～インドネシアの仲間たち～」に於いて、久世の講演会「インドネシアの熱帯雨林に住むオランウータンといきものたち」(13時00分～14時35分)と、おらけんのワークショップ「オランウータンの巣(ベッド)体験」(12時00分～16時30分)、ブース出展を行いました。(次頁に詳細)

■ 11月3日(日)

湘南国際アカデミア講演会「カフェ・インテグラル」(総合研究大学院大学統合進化科学研究センター学術講演会)で、蔦谷が「森の賢人を追って 野生オランウータンの調査研究」の講演を行いました。

■ 12月7日(土)

大阪市本町ガーデンシティに於いて、認定NPO法人ボルネオ保全トラスト・ジャパン(BCTJ)講演会が行われ、「野生動物から学ぶ生き方～ボルネオの生物多様性保全の現場から」と題し、黒鳥が動物園と野生でくらすオランウータンや大型類人猿について講演しました。

■ 12月7日(土) 13時30分～17時00分

東京大学農学部弥生講堂一条ホールで行われた、市民ZOOネットワーク主催「エンリッチメント大賞2024」の授賞式会場にてブース出展し、オランウータンに関わる書籍やグッズを販売しました。

■ 12月21日(土)、12月22日(日)

福岡市動物園の於いて、「アジアゾウ来園記念講演～ボルネオゾウと共生～」と題し、黒鳥が講演を行いました。

2024年度 メール マガジン

「おらけんマガジン」発行

▽2023年:4月25日、5月5日、5月25日、6月25日、7月10日、8月5日、8月23日、8月31日、9月30日、10月15日、10月30日、11月15日、11月30日、12月30日

▽2024年:1月29日、2月27日、3月25日
(通巻89号より107号を配信)

2024年度 主な活動成果 《講演・イベント》 動物園での 活動①

■ 10月27日（日） よこはま動物園ズーラシア
「ズーラシアフェス!〜インドネシアの仲間たち〜」

神奈川県横浜市にあるよこはま動物園ズーラシアでは、毎年その年のテーマとなる動物の雑貨販売やワークショップのイベントをおこなっています。

2024年はボルネオ島の固有種であるテングザルの来園15周年を記念して、テングザルをはじめボルネオオランウータン、マレーバクなど、インドネシアに生息する動物たちをテーマにしたイベントが開催されました。

このイベントに、おらけんからは久世が講演「インドネシアの熱帯雨林に住むオランウータンといきものたち」、おらけんスタッフが「オランウータンの巣（ベッド）体験」のワークショップで参加しました。

●久世の講演

「インドネシアの熱帯雨林に住むオランウータンといきものたち」

登壇者：久世濃子（オランウータン研究者）

日時：10月27日 日曜日 13時00分から14時35分

講演会には、応募された方が100名ほど参加されました。

久世の講演は、オランウータンの生息地での多様な生き物たちの共生関係、低地混合フタバガキ林がつくる環境の解説、樹上で生活するオランウータンについて、私たち日本人も無関係ではないオイルパンププランテーションによる影響など、多岐にわたりました。

質疑応答も活発で、独り立ちしてからオトナになるまでの期間について、スローリスを食べるスマトラオランウータンについて、またインドネシアの首都移転による影響についてなどの質問がありました。

質問を受けて久世からは、オランウータンの「文化」についてや、独り立ちしてから18歳くらいまでのワカモノ期のオランウータンは、人間のティーンエージャーとよく似ていて、大人でもなければ子どもでもないような時期で、3頭くらいのグループをつくって行動することなどを話しました。

会場では、おらけん賛助会員の小川珈琲様から参加者の方へ「オランウータンコーヒー」のプレゼントがありました。



●おらけんのワークショップ

「オランウータンの巣（ベッド）体験」

日時：10月27日 日曜日 12時から16時30分まで

久世の講演と連動し、剪定枝を使用してオランウータンの巣（ベッド）を再現し、実際に寝て体験していただけるワークショップを開催しました。

樹上で眠るオランウータンの暮らしへの興味と理解を深めてもらうことを目的とし、当団体としては初の試みです。来園者や園の職員の皆様、約200名の方々に体験していただくことができました。

また、普段は「東京動物園ボランティアーズ」のメンバーとして活動している方々に助っ人として参加してもらい、おらけんとして初めて他団体のボランティアの力も借りながらのイベントとなりました。

資材の準備を含め全面的にご協力をいただいたよこはま動物園ズーラシアの方々、コーヒーのご提供をいただいた小川珈琲様、助っ人スタッフの方々にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。



講演会の様子

講演後のアンケートに、自分たちの暮らしと生息地のつながりについて考えた、という感想が寄せられました



巣（ベッド）体験



ベッドの横で、おらけん公式YouTubeの「オランウータンの巣作り」を見ていただきました

2024年度 主な活動成果 《講演・イベント》 動物園での 活動②



講演会の様子

■ 3月22日(土) 名古屋市東山動植物園「動物とヒトとの共存 そのために私たちに何ができるか？」

名古屋市東山動植物園で行われた、名古屋市立大学看護学部・SDGsセンター主催Human Feedbackプロジェクト2025の講演会「動物とヒトとの共存 そのために私たちに何ができるか？」に、おらけん理事でオランウータン研究者の久世と金森が登壇しました。

講演内容

講演1「野生オランウータンの食べ物」 登壇者：金森朝子

講演2「オランウータンの繁殖と食べ物の関係」 登壇者：久世濃子

晴天の3月22日、東山動植物園で行われた講演会は、おらけんのオランウータン研究者が二人揃って登壇する貴重な機会となり、約80名の方が参加され大変盛況でした。

金森は野生オランウータンは何を食べているのかを中心に、久世は食物に関連した繁殖行動などを話しました。双方が関連した内容となっており、より理解が深まる講演でした。参加者は大人の方が多く、皆さん真剣に耳を傾け、また真摯な質問が多く寄せられました(川嶋)。

Human Feedback プロジェクト 2025

3/22 (土) 13:00-14:30

東山動植物園 動物会館内
レクチャーホール
※正門入ってすぐ右

入場無料 定員100名
※先着順、事前申込制

総合司会：尾崎康彦
名古屋市立大学看護学部助教授、教授

イントロダクション：江口雄作
東山動植物園 飼育第一係長

ナビゲーター：木村孝一
東山動植物園 飼育第二係

講演1
「野生オランウータンの食べ物」
金森朝子
特定非営利活動法人
日本オランウータン・ササゲセンター
飼育係長

講演2
「オランウータンの繁殖と
食べ物の関係」
久世濃子
特定非営利活動法人
日本オランウータン・ササゲセンター
理事

動物とヒトとの共存
そのために私たちに何ができるか？

お申込み

【対象】
どなたでもご参加いただけます。
※動物園への入園料は別途必要です。

【申込み方法】
下記アドレスもしくはQRコードから
お申し込みください。
<https://forms.gle/88t8u7WgYQZmE8k7>

QRコード

※当日の降雨・降雪等
状況により
変更させていただきます。

お問い合わせ：info@sfsg.org

2024年度 主な活動成果 《書籍・メディア》

▼2024年度 書籍・雑誌

■ 2023年4月からはじまった、北関東地域の育児フリーマガジン「クルール」で掲載中のおらけん久世の月一連載【コソダテ進化論】は、2025年3月まで配信されました。

- 「あんなに可愛かったのに…」思春期男子が母親に無愛想になるメカニズムとは
- 「教えたがり」なヒト、「見て盗む」サル。ヒトが子どもの「教育」を始めた、やむにやまれぬ理由
- サルの研究をしていたら、娘の好き嫌いが気にならなくなった
- 子どもは「3歳になると弟妹をせがむ」ようにプログラムされている…のかも
- なぜあんなに厳しかった母が、孫には驚くほど甘くなるのか
- 「眠いなら寝ればいいのに…」赤ちゃんはなぜ大騒ぎしないと寝られないのか
- 生野菜、生肉…「火を通さない食べ物だけを食べた方が健康になれる」は正しい？
- サルの世界では、「残酷な」雄しか子孫を残せない？
- 父親の育児が母親の出産間隔に及ぼす影響
- 「最近の親は子どもに甘すぎるのでは？」は、生物学の「親の投資理論」で説明できる
- きょうだいゲンカが起こると、サルの親はいつも決まった方に味方する？
- 母親にも赤ちゃんにもメリットがある、ヒト本来の育児「アロマザリング」



■ 『おらはおおきなオランウータン』作・絵たけがみたえ・監修久世濃子の絵本が出版されました。

発行あかね書房、発行日2024年11月、税込価格 1,650円、AB判32ページ ISBN978-4-251-09981-5

■ 森林文化協会年報『森林環境2025 特集野生動物と人間』に久世が「東南アジアにおける野生動物と開発」というタイトルで寄稿しました。ウェブサイトでPDFの閲覧が可能です。

<https://www.shinrinbunka.com/publish/shinrin/>

▼2024年度 メディア

■ 2024年7月

オランウータンもセルメ？ 傷に薬草塗布 インドネシア研究グループ発表雑誌「PHARMACY NEWSBREAK」

<https://pnb.jiho.jp/article/237399>

ドイツの研究グループが発表した野生スマトラオランウータンのオスが傷口に薬効成分のある葉を貼り付けて「治療」とみられる行動について解説しました。

■ 2025年2月

『ナショナル・ジオグラフィック・キッズ（英語版）』の記事に、おらけんの研究者が取材に協力しました。協力したのは、2025年2月号の7ページに掲載のオランウータンの記事です。



2024年度 主な活動成果 《映像制作》

■ ■ YouTube【公式】おらけんチャンネルについて

2021年より、多くの方にオランウータンについて、またおらけんの活動を知っていただくため、オンラインでの情報発信に力を入れています。ダナムバレイの野生オランウータン調査や研究の動画、おらけんイベントのアーカイブ動画、スマトラ島に生息するオランウータン情報の動画などを配信しています。

■ ■ YouTube動画 公開

第5話 「オランウータンの食べもの」

野生のオランウータンが森の中で何を食べているのかをご紹介します映像です。実は、このテーマは動物園のオランウータン飼育員の方から最もよく聞かれる質問のひとつです。そんな疑問に答えるために、今回の動画を作成しました。

<https://youtu.be/WZuy06cV5v4>



※この動画は英語版でも配信しています。

#05_#05_ Orangutan food

<https://youtu.be/qDIZr32bD-0>



今後も継続して動画を配信する予定です。ぜひチャンネル登録をお願いいたします。YouTube【公式】おらけんチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCxSfKNt07-qYwB-l3uJAZcA>



今後もオランウータンの暮らしや魅力を発信していきます！

2024年度 主な活動成果 《英語版パンフ レット&ポスター》

英語版パンフレットとポスターの作成

調査拠点であるダナムバレイ保護区においても、地元の人々や観光客に私たちの活動やオランウータンの現状を伝えるために、英語版のパンフレットとポスターを作成しました。

これらは、ボルネオ・レインフォレスト・ロッジおよびダナムバレイ・スタディセンター（旧・フィールドセンター）の受付に設置され、多くの来訪者の目に触れるようになっています。

さらに、クアラルンプールに事務所を構えるKL日本人会にも設置されています。海外で私たちの掲示物を見かけた際は、ぜひ足を止めてご覧いただければ幸いです。



英語版パンフレット



英語版ポスター

※ポスターは6バージョンあります

2024年度 主な活動成果 《その他の活動》

2024年8月3日 オンラインセミナー「オランウータン学校」

オランウータンの生態や生息地について学びながら、自然環境の保護の重要性についても考えるオンラインセミナーを小川珈琲と共催しました。お子様から大人まで楽しめる内容を意識して、今年も多くの方々にご参加いただきました。

2024年8月4日-19日 展覧会「森の人からのおくりもの」

京都の小川珈琲株式会社が堺町錦店で開催した「オランウータン展覧会～森の人からのおくりもの」へ協力しました。多摩動物公園にいたオランウータン、モリーとジプシーが描いた絵の展示を行い、おらけん研究者の書籍やJAMMINとのコラボTシャツの販売を行っていただきました。



恒例のオンライン講習会「オランウータン学校」、2024年は絵画展「オランウータン展覧会～森の人からのおくりもの」の会場から配信

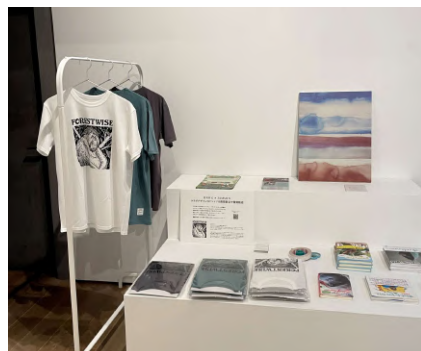


モリーとジプシーの紹介と作品

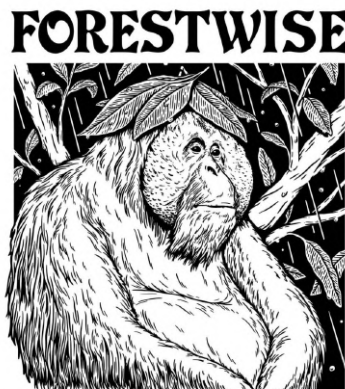
2024年8月

京都アパレルメーカーJAMMINとおらけんのコラボ企画、オリジナルデザインのオランウータングッズ「FORESTWISE」のTシャツを期間限定で再販しました。熱帯の激しい雨の中、オランウータンが木の葉の雨傘をさしてしのぐ姿がデザインされています。これも彼らが厳しい環境を生き延びた知恵のひとつです。FORESTWISE（森を生き抜く知恵）という言葉には、厳しい環境を生き抜くオランウータンへの畏敬の念をこめました。

こちらのTシャツは色、数量限定ながら、現在も東京の多摩動物公園のギフトショップで販売していただいております。お立ち寄りの際はぜひ探してみてください！



展覧会会場の様子
「FORESTWISE」のTシャツも販売



画像提供：JAMMIN

2024年度 主な活動成果 《その他の活動》

■ おらけん理事の中村が北海道の動物園3園を訪問し、メールマガジンで最新情報を紹介しました。

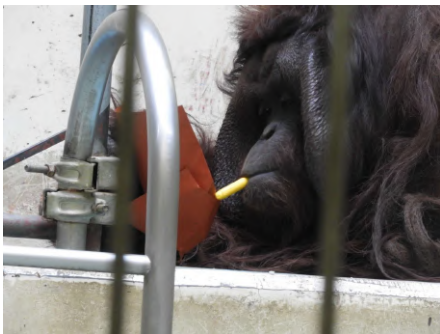
2025年2月21日から25日までの4泊5日で、北海道の動物園3園を巡ってきました。一面の雪景色が広がる北海道らしい旅を満喫できました。

■ 2025年2月21日・22日 札幌市円山動物園

札幌市の中心部からアクセス抜群の円山動物園は、多くの来園者で賑わっていました。多くの施設が屋内にあり、外が大雪でも暖かい室内でゆったりと動物たちを観察できるのが魅力です。アジアゾウのような大きな動物たちも、広い室内で活発に動き回っていました。特に印象的だったのは、当時ほぼ完成していた新しいオランウータン舎「オランウータンとボルネオの森」です。オランウータンたちが快適に過ごせる素晴らしい環境であることはもちろん、観覧通路にも楽しい仕掛けが随所に散りばめられており、何度でも訪れたいような工夫が凝らされています。新施設は2024年5月にオープンしました。きっと今頃、オランウータンのファミリーが毎日楽しく過ごしていることでしょう。円山動物園には、弟路郎（ていじろう、1997年1月26日生）、レンボー（1998年10月7日生）、レイト（令斗、2020年2月3日生）の3頭のオランウータンがいます。2021年のオンラインイベント「第1回おらけんバーチャル動物園」でご紹介した時と比べ、レイトが驚くほど大きく成長していたのには感動しました。ぜひ3頭に会いに行ってください！



新施設「オランウータンとボルネオの森」（札幌市円山動物園）



茶色い画用紙と黄色いクレヨンに夢中の弟路郎さん（釧路市動物園）



久しぶりに会ったらおとなっぽくなったモリト（旭川市旭山動物園）

■ 2025年2月23日・24日 釧路市動物園

2月23日の早朝に札幌市内のホテルを出発し、JR特急おおぞら1号で釧路へ。到着はお昼頃になりましたが、改めて北海道の広さを実感しました。釧路市動物園は広大な敷地が魅力で、移動中も北海道の豊かな自然を満喫できます。「北海道ゾーン」では、時間をかけてじっくり観察しながら散策するのがおすすめです。

私が訪問した2月、釧路市動物園にはボルネオオランウータンのメス「りな」（2014年1月15日釧路市動物園生）とオス「弟路郎（ていじろう）」が暮らしていました。弟路郎は釧路市動物園で生まれ、2000年に札幌市円山動物園へ移動し、そこで立派なフランジオスになりました。今回は、円山動物園のオランウータン舎工事のため、一時的に釧路市動物園に里帰りしているタイミングでの訪問となりました。

外気温が氷点下にもかかわらず、2頭は暖かい室内でクレヨンでお絵描きをしたり、ケロリンの洗面器などたくさんのおもちゃで遊んだりしていました。

なお、弟路郎はすでに円山動物園に戻り、新しい施設で暮らしています。現在は、りなちゃんがひとり暮らしをしているので、ぜひ会いに行ってみてください！

■ 2025年2月25日 旭川市旭山動物園

旅の最後に訪れたのは、行動展示で有名な旭川市旭山動物園です。到着したちょうど良いタイミングで「ペンギンの散歩（冬期の積雪期のみ）」が始まる直前で、間近で見ることができました。

旭山動物園では、ガラス越しに面白い角度などで動物たちを間近で観察できるのが醍醐味です。また、園内にたくさんある展示パネルは、興味深い内容だけでなく、デザイン也非常に見やすく工夫されており、とても感銘を受けました。

オランウータンは、父ジャック（1981年9月22日多摩動物公園生）が2024年2月14日に亡くなった後、兄モリト（2007年7月30日生）と妹モカ（2015年2月5日生）が暮らしています。

初めて会った時はまだ小さかったモリトが、手足も毛も長く、立派に成長していることに驚きました。まるで久しぶりに会った親戚の子が、見違えるほど大きくなっていったような不思議な感覚です。しかし、顔の中心部分は以前のモリトの面影を残していました。

妹のモカも、以前は小さかったのにすっかり大きくなっていて、月日の流れの速さを感じずにはられませんでした。

ぜひ、成長したモリトとモカに会いに訪れてみてください。

2024年度 寄付・会費収支報告

ダナムバレイ・オランウータン調査 調査事業における主な支出項目

- ・アシスタントの給与
- ・アシスタントの食費・消耗品
- ・アシスタントの保険・年金
- ・調査小屋の賃貸料
- ・調査小屋の光熱費
- ・調査小屋の修繕費
- ・保護区への交通費
- ・研究者渡航費
- ・調査道具、調査小屋の備品
(写真参照※)



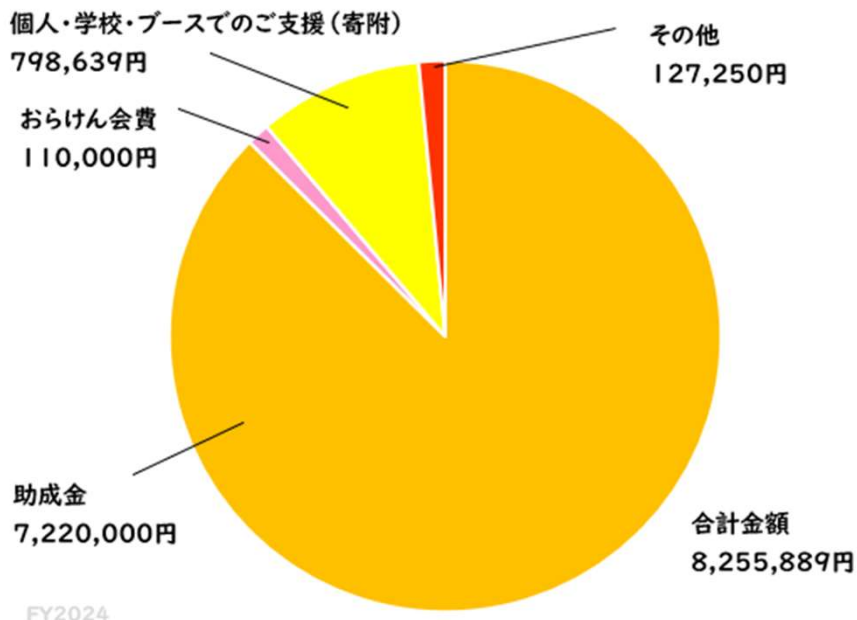
調査小屋



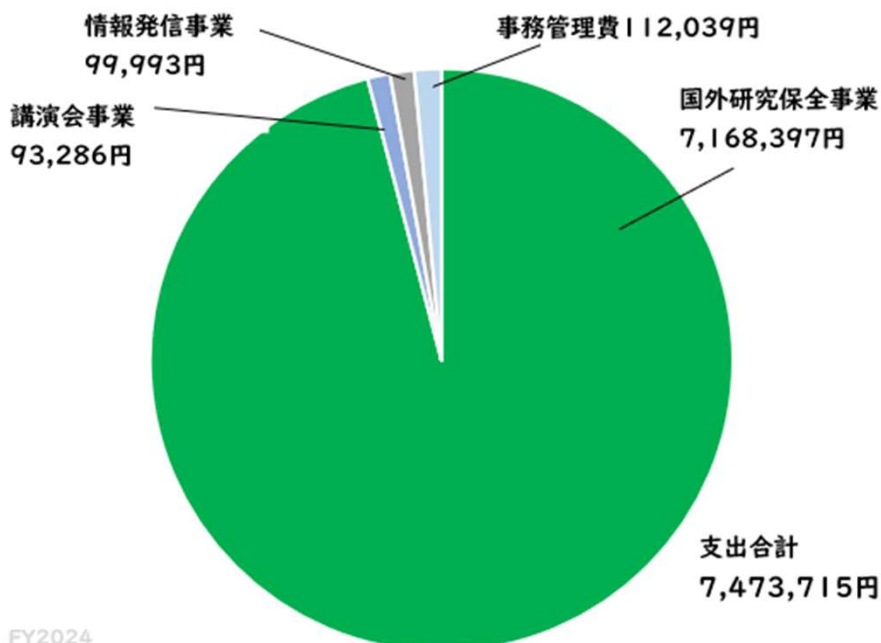
※調査道具、小屋備品

助成金・寄付・会費・その他の収入 2024.4.1-2025.3.31

前期繰越額
3,279,258円



活動支出 2024.4.1-2025.3.31



次期繰越額
4,061,432円

2024年度、皆さまからご支援いただいた寄付金は、798,639円でした。
ご寄付のおかげでダナムバレイ調査支援を含む活動を、2024年度も継続して行うことができました。
ご支援に心より感謝申し上げます。

寄付について

日本オランウータン・リサーチセンターの活動は、皆さまからのご支援で成り立っています。いただいたご支援は野生オランウータンの調査研究（調査助手の人件費、研究道具の購入など）や、講演会の開催への支援等に活用させていただきます。ぜひ会員・サポーターに申し込みいただき、ご支援をお願いします。下記からご希望の会員/サポーターの種類を選んでください。

寄付サイトCongrantのサイト(<https://congrant.com/project/orangutan/1077>)からもアクセスできます。クレジット決済と口座振替からお選びいただけます。賛助会員は2024年1月より、都度決済から継続決済（年に1回自動引き落とし）に変更になりました。

会員になる

- ・賛助会員（年更新）
会費 6,000円/年
※活動理念に賛同し、
団体の活動を応援・支援



寄付をする

- ・都度寄付/1回限り
※任意の金額



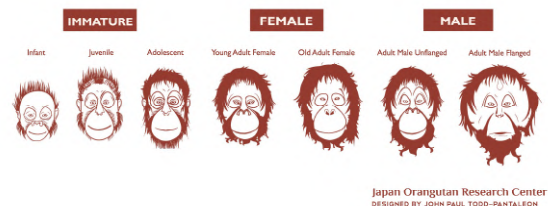
- ・マンスリーサポーター（継続寄付）
1,000円以上/月
※NPOの活動を、月々少額で
寄付継続的にサポート



金額にかかわらず、ご寄付いただいた皆さまには、下記の特典をご用意しています。

- ・メールマガジン「おらけんマガジン」の配信（毎月発行）
- ・活動報告書を配信（年1回発行）

■年間6,000円以上ご支援いただいた方に、
おらけん特製手ぬぐいをプレゼントしています。



デザイン: John Paul Todd-Pantaleon

PayPal決済導入



《2021年10月》
海外向け寄付システムとして、英語の寄付ページにPayPal
決済を導入しました

Enabled donation through the English page

助成金

2024年度は、以下の助成を受けました。

- ◇ 独立行政法人環境再生保全機構/地球環境基金
- ◇ 公益信託経団連自然保護基金/経団連自然保護協議会

編集後記

おらけんレポート第9号を無事に発行いたしました。公式WEBサイト、Facebookページなどでも随時、最新情報を発信しています。

ぜひブックマークや、「いいね!」のフォローをお願いします!

公式WEBサイト: <http://orangutan-research.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/orangutan.research/>

Instagram: https://www.instagram.com/ourc_jp/

Twitter: https://twitter.com/ourc_jp

YouTube公式(日本語):

<https://www.youtube.com/channel/UCxSfKNt07-qYwB-l3uJAZcA>

YouTube公式(英語):

<https://www.youtube.com/channel/UC9QtTK9MiJha6R6u3QHsTfw>

発行日 2025年5月30日

発行: 特定非営利活動法人 日本オランウータン・リサーチセンター

URL: <http://orangutan-research.jp/>

E-mail: info@orangutan-research.jp

※本ニュースレターの文章・画像等の内容の無断転載及び複製等の行為はご遠慮ください。

【編集担当者より】

▼ 今年も最後までお読みくださり、ありがとうございます。

2024年度(2024年4月~2025年3月)は、残念ながら国内で3頭のオランウータンが息を引き取り、繁殖成功例はありませんでした。また野生での生息環境も厳しい状況が続いています。

日本の皆様にオランウータンのことを知っていただき、オランウータンの魅力に気が付いていただくことが私たち「おらけん」の役割のひとつだと思っております。そのために何ができるか、2025年度も皆様のご支援をいただきながら試行錯誤してまいります。

どうか引き続き、おらけんへのご理解と温かいご支援をよろしくお願いいたします。(内藤)

▼ ダナムバレイの調査報告で、現地スタッフのガブリエルさんが転職したことを知りさみしい気持ちになりましたが、研修生が次々と学びに来ている様子に心躍りました。現地の方がオランウータンについて知ることはとても大切なこと、この「人材育成」の活動が長くつづくよう、皆さまと一緒に見守っていただけると嬉しいです。2025年度も何卒よろしくお願いいたします。(那須)